

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇6月30日～

先週はイランとイスラエルが停戦合意したというニュースで市場の不安要因が1つなくなりました。株価は強い動きとなり、S&P500やナスダックは史上最高値更新となりました。

そして、日経平均も4万円を回復しています。

株式相場はリスクオンの霧囲気になりつつありますが今週から7月ということで、流れが変わってくるかもしれないため動きを注視したいです。

為替相場は先週、ドル／円がずっと下落しているため日本株とは逆の動きとなっています。

中東情勢が安定したことで原油価格も下落しています。

米国の早期利下げ期待もあり、ドル／円は軟調な動きとなっています。

関税交渉の期限が迫ってきましたがトランプ大統領は、期限は前倒しになる可能性もあると言っています。

28日には突然、カナダが導入したデジタルサービス税に対して激怒し、カナダとの交渉を打ち切ると表明しました。さらに、カナダに新たな関税を課すというような事も言っています。

そして、日本も赤沢経済再生担当相が訪米中ですが合意は難しい状況です。

日経が先週スクープした情報も気になります。中国のフェンタニル密輸組織が日本の名古屋に拠点を持ち、名古屋港を経由して米国にフェンタニルが輸出されているという情報です。

米国では年間数万人もフェンタニルで亡くなっているため中国、メキシコ、カナダに対してフェンタニル関税を課すという話から関税問題がヒートアップしてきた経緯があります。

今のところ日本ではフェンタニル関連は問題になっていませんが米国との交渉でこの問題が新たに浮上すれば大きな問題になるかもしれません。

交渉期限の延長もありますがカナダのように打ち切りとなるリスクもゼロではありません。

米国は重要な地域や国とは9月1日までに交渉を終わらせたいと思っているようです。

今週は再び、関税交渉でマーケットが揺れ動く可能性があります。

そして、利下げをしないFRBに対してトランプ大統領の圧力が強まっています。

7月のFOMCでの利下げの可能性が高まれば円高ドル安が進むかもしれません。

パウエルFRB議長の後任人事についても利下げをする人物を選ぶとトランプ大統領は言っています。来年5月でパウエル議長は任期満了となりますがFRBの人事に関するニュースも見えておく必要があります。

ほかにも減税策を盛り込んだ法案が今週中に可決されるかもしれません。

今週は米国で雇用統計があります。雇用統計が弱い結果となると利下げ期待がさらに高まりそうです。4日(金)は米国が独立記念日で休場なので、雇用統計は3日(木)に発表されます。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

先週のドル／円は月曜に 148 円台の高値をつけてから下落しています。
中東問題が落ち着いたことで有事のドル買いの動きがおさまったこともあり、じわじわと週末にかけて円高が進みました。
143 円台後半まで下げた後は、少し戻して 144 円台半ばでマーケットは終わっています。
4 月後半につけた安値 139.8 円あたりから引いたサポートラインあたりまで下げてきたので、
144 円あたりで反発すれば 146 円あたりまで上昇する可能性があります。
逆に、先週安値の 143.7 円を割り込むと 142 円あたりまで下落するリスクが出てきます。
142 円も割り込むと 140 円が視野に入ってくるため注意がいります。

<気になるクロス円>

ユーロやポンドは 6 月ずっと強い動きが続きました。
オセアニア通貨もあまり動きはありませんが堅調な動きを維持しています。
株価が強い動きになるとリスクオンで強い動きになりやすいため株価の動きも重要です。
カナダドルは先週やや軟調な動きとなっていますが、関税交渉打ち切りのニュースが心配です。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では 5 月鉱工業生産、4－6 月期日銀短観、植田・日銀総裁発言などがあります。
米国では 6 月シカゴ購買部協会景気指数、パウエル・FRB 議長発言、6 月製造業 PMI(改定値)、6 月 ISM 製造業景況指数、5 月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、6 月 ADP 雇用統計、5 月貿易収支、6 月雇用統計、前週分新規失業保険申請件数、6 月サービス部門・総合 PMI(改定値)、5 月製造業新規受注、6 月 ISM 非製造業景況指数などが発表されます。
欧州では、ユーロ圏とドイツで 6 月消費者物価指数、6 月製造業・サービス業 PMI(改定値)、ドイツで 5 月小売売上高、5 月製造業新規受注、ユーロ圏でラガルド・ECB 総裁発言、5 月卸売物価指数などがあります。
ほかには、中国で 6 月製造業 PMI、英国で 1－3 月期 GDP(改定値)の発表などがあります。